



2011年5月23日
株式会社ウェッジホールディングス
2011年5月 会社説明会

Contents

- **当社の概要**
 - 会社概要
 - 沿革
 - 主要グループ会社の構成
 - 4つの事業セグメント
- **2011年9月期第2四半期業績と財務状況**
 - 2011年9月期 第2四半期連結累計期間経営成績(P/L)
 - 連結業績予想との差異について
 - 連結業績の推移
 - 2011年9月期 第2四半期連結財務状況(B/S)
- **セグメント別業績と事業トピックス**
 - セグメント別売上高および営業利益
 - セグメント別売上構成
 - 投資育成事業の概況
 - ファイナンス事業の概況
 - コンテンツ事業の概況
 - 物販事業の概況
- **今後の事業方針と各事業の取り組み**
 - 事業方針
 - 投資育成: 東南アジアへの投資機会に注力
 - ファイナンス: 地方展開と経営体制強化
 - コンテンツ・物販: 業績改善も震災後の環境変化に対応
 - 当社グループの課題について
- **業績予想と株主還元について**
 - 2011年9月期(第10期)の連結業績予想
 - 株主還元に関する方針

当社の概要

会社概要

- **会社名: 株式会社ウェッジホールディングス**
(英語表記: Wedge Holdings CO., LTD.)
 - － **設立:** 2001年10月
 - － **資本金:** 1,939,143,700円
 - － **上場市場:** JASDAQ グロース
 - － **代表者:** 代表取締役社長 田代宗雄
 - － **本部事業所:** 東京都中央区日本橋本町1-9-4
Daiwa日本橋本町ビル
 - － **従業員数** 302人(うち海外221名)
※グループ全体・2011年3月末時点
 - － **グループ会社**
 - **国内子会社** 株式会社 ラディクスモバニメーション
株式会社 ペプトワンニュートリション
 - **海外子会社** Group Lease PCL(タイ 証券取引所一部上場)
Engine Holdings Asia PTE(シンガポール)

沿革

- 2001年10月 株式会社ブレインナビとして設立
 - » 編集プロダクション事業を中心に展開
- 2004年1月 大阪証券取引所ヘラクレス市場(現JASDAQ)に株式上場
 - » 翌年にかけて、物販事業、投資事業へとM&Aを含め事業領域を拡大

- 2005年7月 会社分割により株式会社ウェッジホールディングスとして持ち株会社に移行
 - » その後一部の子会社の吸収により事業持ち株会社化
 - » 2007年9月期まで3期連続の赤字が続く業績低迷期に
 - » 2007年9月 第三者割当増資により東南アジアに展開する投資会社APFグループが筆頭株主に

2001~2004

設立と
上場期

2005~2007

業績
低迷期

2008

経営
改革期

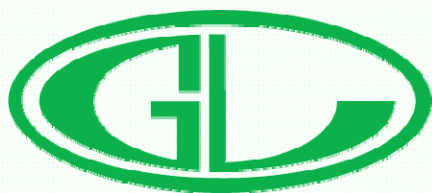
2009~

新たな
成長へ

- 2007年12月 経営体制を刷新、改革に着手
- 2008年11月 2008年9月期、黒字転換

- 2009年1月 シンガポールにEngine Holdings Asiaを設立、東南アジアへの投資基盤を強化
- 2009年7月 タイ株式市場一部上場ファイナンス会社 Group Lease PCLを連結子会社化、ファイナンス事業に進出
- 2010年7月 コンテンツ事業・物販事業子会社を吸収合併
- 2010年10月 スポーツ関連事業を行なう(株)ペプトワンニュートリションを子会社化

主要グループ会社の構成

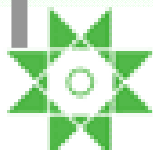


Group Lease PCL
タイ・ファイナンス事業



株式会社
ウェッジホールディングス
投資育成・コンテンツ・物販

48.58%保有

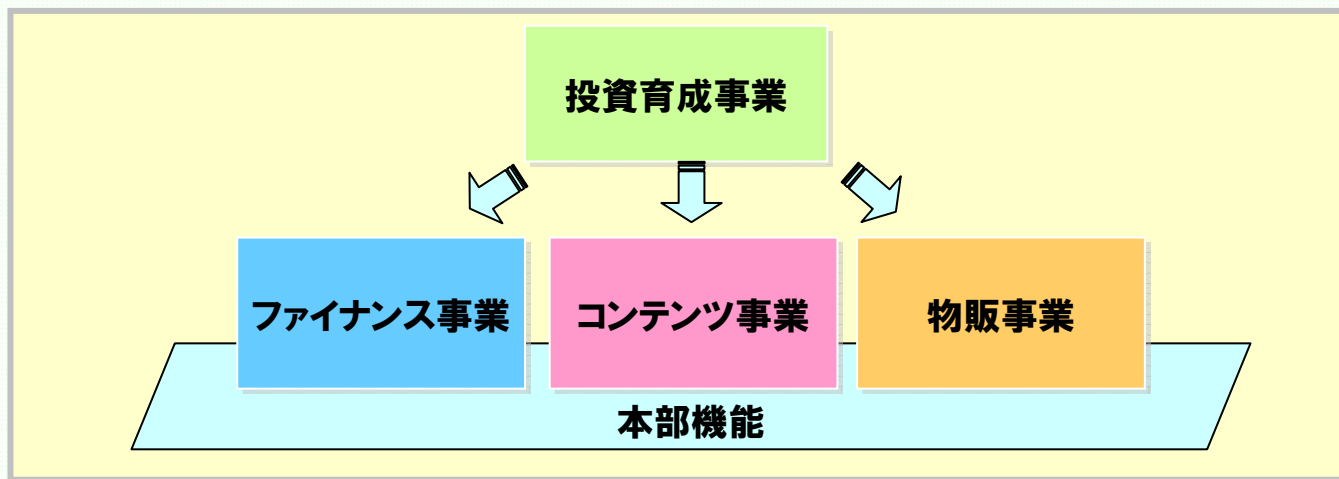


ENGINE
Holdings *ASIA*

Engine Holdings Asia PTE
シンガポール・投資育成事業

100%保有

4つの事業セグメント



◆投資育成事業

日本およびシンガポールのEngine Holdings Asia を拠点に事業を展開、投資収益の獲得に加えグループの成長をにらんだM&A活動を担う

◆ファイナンス事業

タイにおいてオートバイリース事業を営むGroup Lease PCLによる事業。2009年7月より子会社化

◆コンテンツ事業

創業事業である編集・出版関連事業に加えカードゲームの企画制作が収益の柱。2008年設立の音楽事業も前期より収益寄与

◆物販事業

海外玩具製品の輸入代理業に加え、店舗ネットでの小売や企業向けにOEMなどを手がける

**2011年9月期第2四半期
業績と財務状況**

2011年9月期第2四半期連結累計期間 経営成績 (P/L)

(単位：千円)

	2011年9月期 第2四半期累計	(参考)2010年9月期 第2四半期累計	(参考)2009年9月期 第2四半期累計	対前年比
売上高	1,936,014	1,871,634	901,949	103.4%
営業利益	569,695	310,194	-43,434	183.7%
経常利益	522,929	291,294	29,640	179.5%
当期純利益	116,930	185,958	8,465	62.9%

- ・ファイナンス事業は順調に推移
- ・国内事業では、特に東日本大震災がカードゲーム事業、物販事業の売上に影響したため、売上高が当初想定を下回ったが、ファイナンス事業がリカバーし前年同期比では3.4%増
- ・営業利益に関しては第1四半期と同様、不採算事業の切り離しが功を奏し、前年同期比83.7%増
- ・当期利益に関しては、前年同期は連結子会社売却による特別利益があったため、前年同期比で62.9%となった

ファイナンス事業が好調で国内事業の不振をリカバーしたが、
当期純利益ベースでは前年同期比マイナスとなる

連結業績予想との差異について

(単位：百万円)

	2011年9月期 第2四半期累計	第2四半期累計期間 業績予想	差異	比率
売上高	1,936	2,000	-64	96.8%
営業利益	569	500	69	113.8%
経常利益	522	450	72	116.0%
当期純利益	116	200	-84	58.0%

- 売上高は、国内事業の不振をファイナンス事業の好調がカバーする形となり、ほぼ予想どおり
- 営業利益／経常利益ベースでも、同様にファイナンス事業が好調となる一方で、国内事業で利益率の高いカードゲーム事業と東日本大震災の影響が発生、物販事業も低調に。その結果、見通しを上回るも海外利益の比率が高まる。
- 当期純利益ベースでは、上記の海外収益比率が高いことが、少数株主持分流出の増大につながり、また下期以降の国内事業の利益見通しを引き下げたことに伴い2Qで繰延税金資産の取崩しが発生、予想を大幅に下回る結果になった

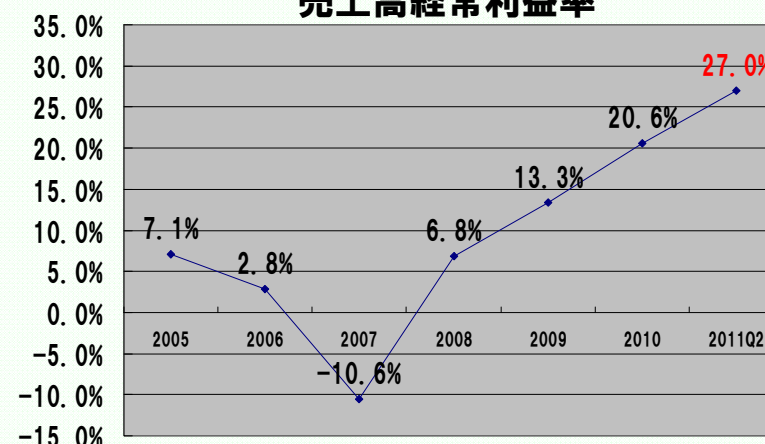
当期純利益ベースでは、海外収益比率の高まりが少数株主持分の流出率増大となり、予想を下回る結果に

連結業績の推移

(単位：千円)

	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011Q2	2011 (修正予想)
売上高	1,337,059	3,277,380	2,593,505	2,139,054	2,417,459	3,699,833	1,936,014	4,000,000
営業利益	94,320	96,373	-265,347	62,321	137,362	802,506	569,695	1,000,000
経常利益	94,625	92,316	-273,791	146,164	322,026	761,444	522,929	950,000
当期純利益	-534,746	-717,671	-525,337	81,518	204,089	369,524	116,930	280,000

売上高経常利益率



- 2008年度より経常黒字化以後、順調に業績は伸長
- 営業利益率、経常利益率については国内不採算事業の整理により大幅に改善
- 当期利益については、当初想定より海外収益比率が高まったことにより少数株主持分による流出が増大し、さらに繰延税金資産の取崩しにより予想を下回る

売上高・営業利益・経常利益は順調に推移するも、
海外収益比率の高まりにより当期利益は当初想定を下回る

2011年9月期 第2四半期連結財務状況(B/S)

(単位：千円)

連結貸借対照表	2010年9月期	2011年9月期 第2四半期	対前期末比
流動資産	4,396,646	9,205,540	209.4%
固定資産	5,669,137	1,479,708	26.1%
(内) 投資その他の資産	5,108,850	925,308	18.1%
資産合計	10,065,783	10,685,248	106.2%
流動負債	2,756,972	3,063,087	111.1%
固定負債	1,817,807	1,650,697	90.8%
負債合計	4,574,780	4,713,784	103.0%
株主資本合計	4,211,638	4,503,397	106.9%
純資産合計	5,491,003	5,971,464	108.7%

- ・前期末比では、ファイナンス事業の順調な拡大に伴い資産、負債ともに増加傾向だが、営業貸付金の区分を1年以内、1年超ではなく、正常債権は流動資産として、不良債権のみ固定資産とする区分表記の変更により、流動資産が大幅に増加し、固定資産が大幅に減少している
- ・固定負債に関しては、発行した転換社債の転換権行使が行われたため、株主資本に振り替わり健全性が高まる
- ・全体としては純資産も増加し、良好な財務状態を維持している

事業基盤の拡充に伴い順調に規模を拡大中

セグメント別業績と 事業トピックス

セグメント別売上高および営業利益

(単位：千円)

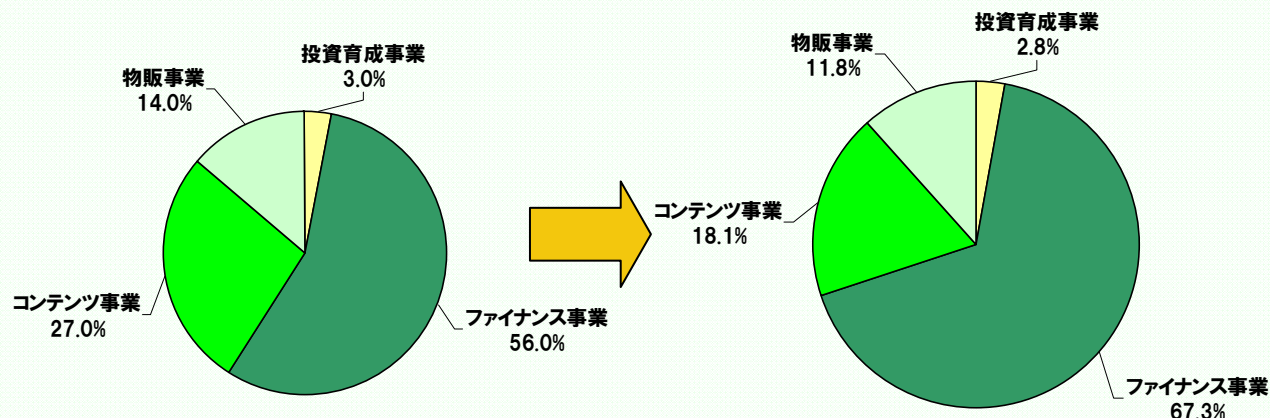
報告セグメント		2010年9月期 第2四半期累計売上	2011年9月期 第2四半期累計売上	前年同期比 増減率
投資育成事業	売上高	55,893	53,301	-4.64%
	営業利益	29,711	34,318	15.51%
ファイナンス事業	売上高	1,048,702	1,291,840	23.18%
	営業利益	424,477	542,947	27.91%
コンテンツ事業	売上高	504,973	347,648	-31.16%
	営業利益	▲ 57,025	93,022	黒字転換
物販事業	売上高	262,065	225,918	-13.79%
	営業利益	▲ 11,983	▲ 5,985	赤字幅縮小
その他	売上高		17,305	
	営業利益		▲ 23,373	
(合計)	売上高	1,871,634	1,936,014	3.44%
	営業利益	310,194	569,695	83.66%

コンテンツ事業の大幅黒字転換、ファイナンス事業伸長により
営業利益ベースでは大幅に改善

セグメント別売上構成

(単位：千円)

	2010年9月期 第2四半期累計売上		2011年9月期 第2四半期累計売上		前年同期比 増減率
	売上	比率	売上	比率	
投資育成事業	55,893	3.0%	53,301	2.8%	-4.64%
ファイナンス事業	1,048,702	56.0%	1,291,840	66.7%	23.18%
コンテンツ事業	504,973	27.0%	347,648	18.0%	-31.16%
物販事業	262,065	14.0%	225,918	11.7%	-13.79%
その他			17,305	0.9%	
(合計)	1,871,634	100.0%	1,936,014	100.0%	3.44%



- ・ファイナンス事業の順調な拡大が続き、引き続きファイナンス事業セグメントの比率があがっている

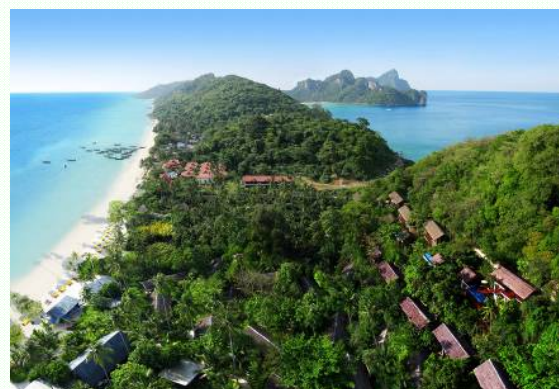
高成長のタイにおけるファイナンス事業が伸長し海外比率が拡大

投資育成事業の概況

(単位：千円)

報告セグメント		2010年9月期 第2四半期累計売上	2011年9月期 第2四半期累計売上	前年同期比 増減率
投資育成事業	売上高	55,893	53,301	-4.64%
	営業利益	29,711	34,318	15.51%

- ・当第2四半期中は大きな業績変動要因となる新たな投資はなく、
転換社債利息等の固定収入が安定して継続
- ・2011年3月に償還満期を迎えた転換社債については、スキーム変更後、2011
年4月に株式を取得し、持分法対象会社に
 - － P.P.Coral Resort社の40%株式および持株会社であるEngine Property
Management Asia 社の40%優先株式を取得済み→**実質的にゼボラリゾートの配当の100%を取り込み可能なスキームを構築**



ファイナンス事業の概況

(単位：千円)

報告セグメント		2010年9月期 第2四半期累計売上	2011年9月期 第2四半期累計売上	前年同期比 増減率
ファイナンス事業	売上高	1,048,702	1,291,840	23.18%
	営業利益	424,477	542,947	27.91%

- **営業地域拡大で、新規契約の増加が続く**
 - － 前期から注力してきたタイ東北地方への集中的な営業強化が、新規契約件数の増加にも貢献
- **前期からの新規契約の積み上げで、売上伸張が顕著に**
 - － 新規契約は2年程度で回収するビジネスモデル
昨年からの継続的な新規契約増加が影響し、前年同期比では売上はより大きく増加することに
- **中古バイク市場の好調も、収益性の向上に貢献**
 - － 営業拡大のための販売促進費増加を、債権回収方法としての中古バイク販売の好調がカバー。費用増も吸収し、全体では収益性も向上

新規契約の蓄積効果で業績の伸長が続く

コンテンツ事業の概況

(単位：千円)

報告セグメント		2010年9月期 第2四半期累計売上	2011年9月期 第2四半期累計売上	前年同期比 増減率
コンテンツ事業	売上高	504,973	347,648	-31.16%
	営業利益	▲ 57,025	93,022	黒字転換

- リストラクチャリングの結果、大幅に黒字転換
 - － 前年同期に不振だった映画・映像事業を2010年3月に売却した結果、売上高が減少となるも営業利益は大きく改善し、黒字転換に
- 第2四半期では東日本大震災の影響が発生
 - － 営業利益に大きなインパクトを与えるカードゲーム事業においては、カードゲーム市場が3月後半以降影響を受けたためロイヤリティ収入が減少傾向。下半期では市場一時縮小の見通しに。

営業利益に大きくインパクトするカードゲーム事業において
東日本大震災による市場縮小の影響あり

物販事業の概況

(単位：千円)

報告セグメント		2010年9月期 第2四半期累計売上	2011年9月期 第2四半期累計売上	前年同期比 増減率
物販事業	売上高	262,065	225,918	-13.79%
	営業利益	▲ 11,983	▲ 5,985	赤字幅縮小

- **コスト構造改善により赤字幅縮小**
 - － 当第2四半期においては商品入荷の遅れや、東日本大震災の影響による出荷のずれが響き、赤字となったが、累計では赤字幅が縮小し採算性改善
- **独自商品の展開**
 - － メーカー化へ向けた取り組みの第一弾として発売したtanomi.comオリジナルの「ニヤリフォン」「ニヤリキーボード」などが引き続きヒット
- **編集プロダクション部門とのシナジー**
 - － tanomi.com部門と編集プロダクション部門の協業により、ゲーム雑誌付録(ポーチ)の企画および製造を受託

東日本大震災の影響で赤字となったが、全体としては収益性を改善

今後の事業方針と 各事業の取り組み

事業方針

• The Asian Value Innovator

- 東南アジアの活況を活かしつつ、各事業の成長にむけた取り組みを継続
- 海外は今後の成長を果たすため経営体制整備もテーマに
- 日本国内は新規事業育成とビジネスモデルのシフトをはかる取り組みを展開

東南アジア

経営体制の強化

事業拡大にあわせ
継続的な成長を果たすための
体制整備に注力

- 東南アジア事業における企業ガバナンス、統制の強化
- 新たな投資対象事業の発掘
- ファイナンス事業の拡大推進

日本

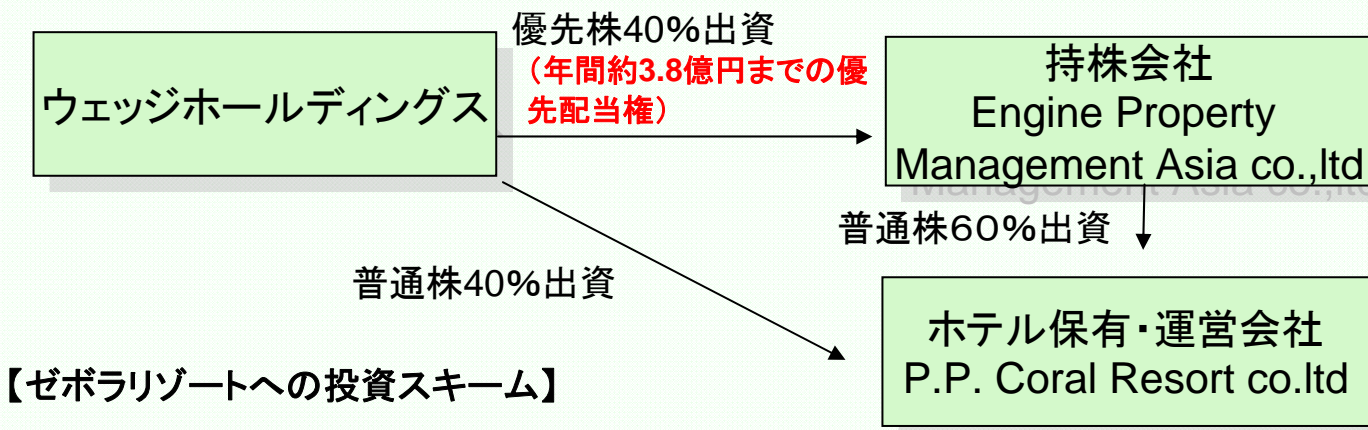
新事業の育成

新たなビジネスモデルへのシフトや
新規事業の育成を加速

- 経営環境に適応した
ビジネスモデルへのシフト
- 新規事業の育成

投資育成：東南アジアへの投資機会に注力

- 東南アジアへの投資機会に注力
 - 投資育成事業は成長性、収益性の高い東南アジア案件の精査に注力
 - ゼボラリゾートへの投資を契機に不動産保有も可能に
- タイ：ピピコーラルリゾート(ゼボラリゾート)
 - 2011年4月、持分法適用会社へ。新たに設立された持株会社Engine Property Management Asia(EPMA)社の優先株式と運営会社P.P.Coral Resort社の普通株式の取得により、ゼボラリゾートの配当のほぼ100%を取り込むスキーム構築
 - マネージメントは専門パートナーに委託を続け当面は収益資産として継続保有
 - 持株会社は今後のタイ国内不動産投資の基盤へ



ファイナンス: 地方展開と経営体制強化

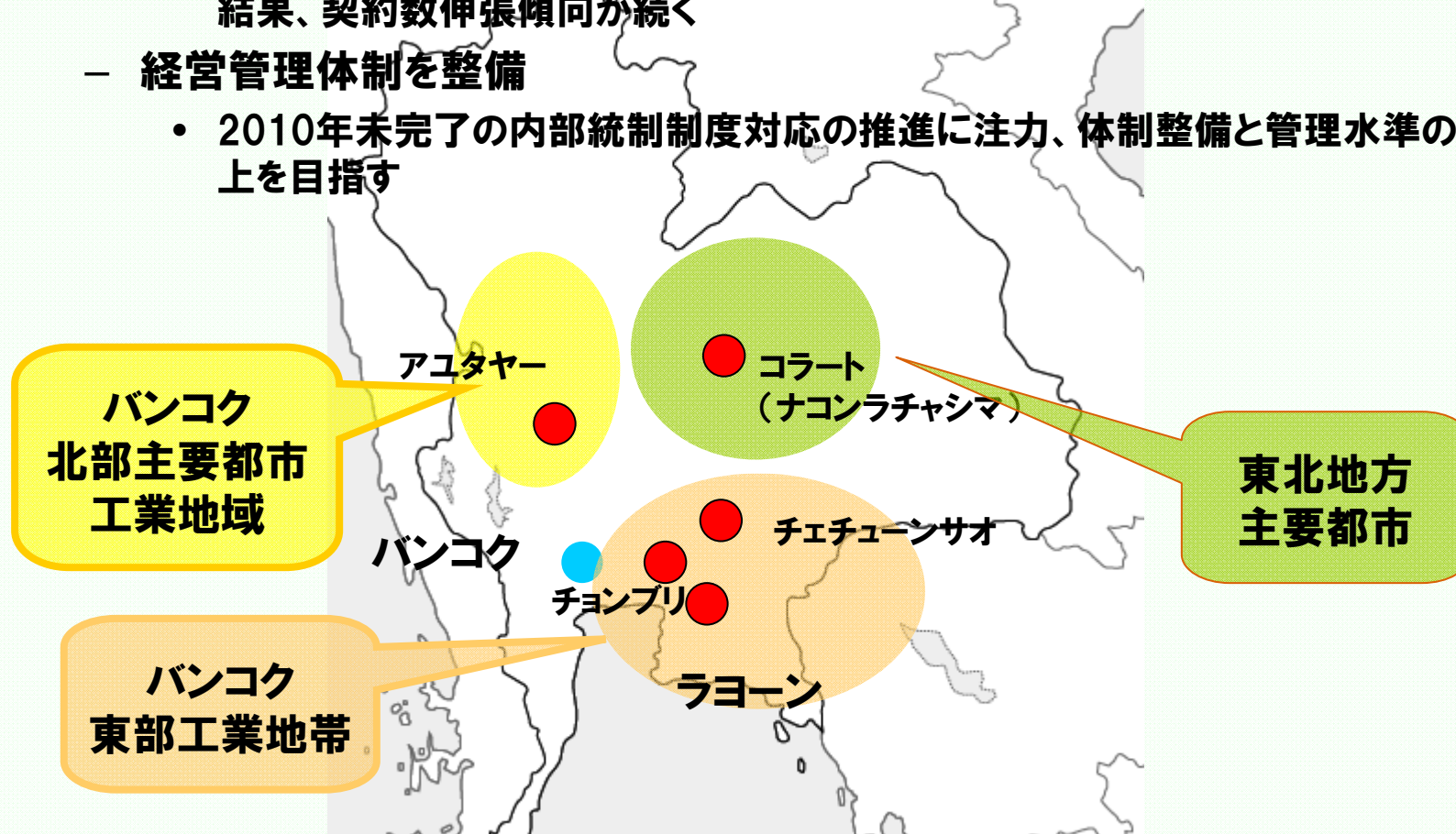
- グループリース

- 地域拡大による営業強化は継続

- 2009年後半以降、東北地方主要都市を初めとして営業地域拡大に取り組んだ結果、契約数伸張傾向が続く

- 経営管理体制を整備

- 2010年未完了の内部統制制度対応の推進に注力、体制整備と管理水準の向上を目指す



コンテンツ・物販：震災後の環境変化に対応

- **カードゲーム事業**
 - **新カードゲーム制作など営業強化。震災後の環境悪化に備える**
 - 当初計画通り新ラインカードゲームの制作を大手メーカーから受注、納品するなど営業強化に成果
 - 震災の影響から3月後半以降のロイヤリティ収入に減少の傾向。取引先の商品発売点数減少など、一時的な収益性低下の可能性を考慮し、今後も代替案件へ積極的に営業
- **編集・出版関連事業**
 - **取引先出版社の出版点数減など、経営環境悪化への対応重視**
 - 営業、組織体制のシフトを継続中、書籍出版も選別強化
 - **コミック携帯配信を軸に新規事業の育成推進**
 - 2009年より開始した書き下ろしコミックの携帯配信事業でノウハウ蓄積
 - スマートフォンなど電子書籍分野でのコンテンツ制作も推進
- **物販事業**
 - **新規商材・新規取引先の開発に注力**
 - **コンテンツ事業部門との協業を拡大**
 - ゲームメーカー、出版社等コンテンツ関連取引先に対する商品提案を強化
 - 従来のコンテンツ制作の取引に加え、書籍付録やイベント用商品等を企画提案、販売が増加中

当社グループの課題について

- **成長に伴う経営管理体制強化**

- **海外子会社の国内の内部統制制度への対応**

- 2010年9月期は海外子会社の内部統制対応作業が未完了となったことから内部統制に関しては意見を表明せず(財務諸表に関しては監査法人から無限定適正意見が表明される)
- 2011年は体制強化等とともにガバナンス強化にも取り組む

- **人的資源の強化**

- 海外事業の拡大に伴うマネジメントの拡大、国内事業における新規事業の増加など、プロジェクト型業務に対応するスタッフの育成を、就労環境整備等と合わせて推進中

業績予想と株主還元について

2011年9月期(第10期)の連結業績予想

● 連結通期業績予想と進捗状況

(単位：百万円)

	2011年度通期 修正業績予想	2011年度通期 当初業績予想	2010年度 通期実績	対前年比	2011年 第2四半期実績	進捗率
売上高	4,000	4,100	3,699	108.1%	1,936	48.4%
営業利益	1,000	1,000	802	124.7%	569	56.9%
経常利益	950	950	761	124.8%	522	54.9%
当期純利益	280	400	369	75.9%	116	41.4%

- 中間期における当期純利益の下振れを踏まえ、修正業績予想も修正
- 2011年度下半期においては、連結では当初想定に近い業績を見込むものの、東日本大震災による国内事業への影響や、海外収益比率が引き続き高く推移することによる少数株主持分流出増大を見込み、売上高および当期純利益において下方修正
- タイにおけるファイナンス事業は順調な伸長が見込まれる
- 投資育成事業における持分法適用会社獲得の影響は軽微
- 国内事業は東日本大震災の消費に与える影響を鑑み、保守的に予想

中間期決算を受け、売上高、当期純利益で下方修正

株主還元に関する方針

- **安定的な評価確立、株価水準の回復をめざす**
 - 震災前の株価水準にも回復できない状況
 - 今後もIR活動の充実等の取り組みを継続的に実施
- **安定配当を継続しつつ業績拡大に応じた見直しも実施**
 - 東南アジアを中心にした今後の成長に向けた資金需要を勘案し、予定配当は1株100円を維持
 - 大幅な業績の変動、安定的収益の見通しに合わせて配当は見直し
 - 子会社からの配当も増加傾向続く。前期後半から資本政策の見直しも実施。自己資金の有効活用を図る

事業改善の成果から中長期視点で堅実に株主還元へ



Thank You!

弊社IRに関するお問い合わせ先
株式会社ウェッジホールディングス 経営管理本部

TEL: 03-6225-2161 / FAX: 03-3548-0566

wedge-ir@wedge-hd.com

<http://www.wedge-hd.com>

※本資料には将来に関する記述が含まれていますが、これらの記述は将来の業績を保証するものではありません。また、本資料の内容に関しては未監査であり、その内容の正確性および確実性を保証するものではありません。